

# バブルの生成と崩壊に関する変化点探索

藤崎朋美\* , 田中周二†

H24.11.10

## 要旨

現在までに、バブルの生成とその崩壊に関する研究や分析は数多く蓄積されてきた。中でも株価変動については、バブルの生成により収益率の上昇トレンド、バブルの崩壊では減少トレンドが発生し、同時にボラティリティが増大することが知られている。

金融経済学では、バブルは資産価格が投資家の期待によってファンダメンタルズ（経済の実体）の価格から乖離する現象と定義される。しかし、一般にある時点のファンダメンタル価格を評価することは困難であり、バブル崩壊後に過去にバブルがあったことを検証できるに過ぎない、とも言われる。

一方、経済物理学者のデイディエ・ソネットは、バブルは投機から生まれ、暴落は対数周期性という前兆現象を伴うと述べている。行動経済学では投資家のハーディング現象などでバブルを説明することもある。

今回、時系列分析における変化点探索の標準的な尤度比検定手法などを用いて、日、米、欧州および新興国市場の過去の長期的な株価データ（日次、月次）を用いて、トレンドや分散の変化点分析を行い、バブルとその崩壊の発生のメカニズムを調べる。

## キーワード

バブルとバブル崩壊 変化点探索 トレンド探索 株価

---

\*日本大学大学院総合基礎科学研究科博士前期課程2年

†日本大学大学院総合基礎科学研究科教授